

生駒南小・中学校の今後を考える会議

第3回会議 会議録

開催日時 令和5年1月12日（木） 午後3時から午後5時10分

開催場所 生駒南小学校 第2多目的室

出席者

（参加者） 田中康博、西澤十三夫、松尾正則、辻本得延、山田龍三、
根來健夫、岡村典子、中田眞知子、大久保智子、眞井英司、
奥田隆史、辻本宣之

（事務局） 原井教育長、奥田教育こども部長、山本教育総務課長、前田教育
指導課長、日高教育指導課教育政策室長、三室教育指導課教育政
策室主幹、松田教育指導課教育政策室教育政策係長

（傍聴者） 10名

欠席者 後藤香里、本山恵造、吉田昭、日高容子

配布資料

資料1 令和4年生駒市教育委員会第12回定例会議案（抜粋）

資料2 今後の予定について

※事務局より配布資料確認

教育長挨拶

本日は、お忙しい中、この考える会議に出席いただきまして誠にありがとうございます。本日、会議は3回目ということで、この会議の役割は何なのだろうということが以前に話題になったかと思います。昨年度、この南小学校、南第二小学校の再編についての地域協議会の中で、いただいたご意見をより早く具現化していきたいという私ども教育委員会事務局の思い、それに当たってはどのような環境づくり、学校づくりをしていけば良いのかということをお教育委員会、教育委員の皆様方とも今進めているところですが、当事者である保護者の方、また地域の方のご意見を聞きながら、共に新しい学校づくりを進めていきたいという思いでスタートいたしました。顔を合わせて話をさせていただくことは非常に大切なことだと、今改めて感じているところです。

先進地の視察や地域の皆様、保護者の皆様への説明会を行いながら、皆様方の思いや不安、疑問、また私どもが構想している思いを伝えて、相互に意見交換をしてきました。このメンバーで、このような形式の集まりということは今回が最後になりますが、これが決してゴールではないわけです。本日も時間を有効に使いながら、私達の思い、考え、計画、そしてまた皆様方からの疑問や、いろいろなご意見にしっかりと耳を傾けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 次第に基づき会議を進めます。

次第で経過報告が1番目、そして2番目に今後の予定についてということでお示しをさせていただいておりますが、【資料1】【資料2】を同時に説明させていただきます。

【資料2】をご覧ください。第2回の会議を10月12日に行いました。10月31日には、会議のメンバーの皆様方にも参加いただいて、北小中学校の視察を行いました。11月6日には、保護者向けの説明会、12月25日には、住民向けの説明会を実施してきました。

次に、総合教育会議と教育委員会の欄を見ていただきたいと思います。10月24日の定例教育委員会に初めて議案を提出しております。その後、定例教育委員会に継続審議という形で議案を出しながら、11月28日には、市長が招集します総合教育会議と定例教育委員会を経ております。そして12月の定例教育委員会に【資料1】でお示ししている議案を出しているところです。それについては、現在も継続審議中ですので、説明させていただきます。【資料1】をご覧ください。現在、定例教育委員会に提出しております議案になります。これはあくまで案になります。【資料1】につきましては、Iでは、改めてこれまでの経緯を示しております。IIでは今後の方向性についてという構成でつくっています。その中で、Iこれまでの経緯では、まず1に、「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」の概要を改めて明記しております。2として、生駒南小学校区地域協議会からの意見書の概要として、以前提出された意見書があった上で、この方向性を決めていっているというこ

とを改めて明記しております。3として、生駒市立小・中学校の再編等に係る方向性の概要の記載をしております。これまでの経緯があった中で、この会議も立ち上げて、話し合いを進めているということを変更して明記をしているということです。

Ⅱ今後の方向性については、今後どうしていくかというところを、今書ける範囲で書いているという内容になりますが、前段として、昨今の小中一貫教育についての状況を記載しております。前段を経て、以下に今後の方向性を示すという形で、1に施設の方向性、2に教育内容の方向性、3に校区の方向性という大きな3つのくくりで書かせていただいております。

詳細につきましては、事前にお配りしておりますので、目を通していただいているかと思いますが、1施設の方向性につきましては、子どもたちが一番成長できる形は何だろうということは今後も検討しながら進めていこう、小中一貫教育を以前に教育委員会でも決めておりますが、その一貫教育を目指しながらも、現実的には小中一貫の連携をやっているというところも考えて、いろいろ融通が利くような書きぶりにもしているというのが現状になります。この話し合いの中でもありましたが、学校教育だけではない、社会教育が融合した多様性のある学びというものが、今後求められていきますので、そのことについても記載をしていて、地域の方々が利用できるような施設を整備していこうではないかということも明記しようということで書かせていただいております。2教育内容の方向性では、今後も準備会や検討委員会という形を設けて、いろんな意見をお聞きする場を設置していきますということも明記しております。3校区の方向性は、ご理解をいただいていると思いますが、小瀬町、壱分西の地域について、できるだけ速やかに校区の調整区域を設定した形に持っていければということで記載をさせていただいております。これが教育委員会として出している議案の中身になります。

【資料2】をご覧ください。【資料1】の議案が最終決定ではございません。この会議でのご意見、教育委員からの更なる修正意見、そして1月の総合教育会議を経て、1月の定例教育委員会で議案を

議決する流れというものを想定しております。また、最終的に決定した議案内容につきましては、自治会回覧と書かせていただいておりますが、皆様方に周知をさせていただく予定をしております。何回も言いますが、様々な方のご意見を取り入れながら進めていくという方向に変わりはありません。【資料2】に、R5から準備会（検討委員会）という棒を引かせてもらっています。それは、これまでの資料にはなかったところですが、今後こういったご意見をいただく場を設けるという意思を改めて表示をさせていただいたということと、教育委員会事務局の欄でR5から基本設計、実施設計となっていたところを、まずは測量調査が必要になってきますので、測量調査が終わってから基本設計になるということも改めて明記をさせていただきました。その辺りで、今後の予定についても修正をさせていただいております。資料の説明は以上になります。それらを踏まえて、ご意見をいただければと思います。また、本日、教育委員会の方からの資料は、次第と【資料1】【資料2】になります。それに加えて、本日、有志の方から意見書が出されております。この会議は意見を言う場ですので、意見書については、お配りしていただいているというところです。

(参加者) 意見書についての説明をいたします。個々に3名が意見を述べますと、非常に散漫にもなりますので、意見書としてまとめて提案した方がわかりやすいかと思い、こういう形にさせていただきました。それでは読み上げます。

生駒南小・中学校の今後を考える会議について以下の意見を提出します。本意見書を第3回の会議の議題としていただき、当会議の意見として採択していただきますようお願いいたします。1. 生駒南小・中学校の今後を考える会議を3回で終わらせることなく、今後も引き続き開き、十分な話し合いを進めることを求めます。2. 保護者説明会や住民説明会など引き続き小・中学校の教育の在り方を議論できる場を継続して設けることを求めます。3. 1月開催の教育委員会で予定されている「方向性の決定」は当会議で一定の方向性が見えるまで延期することを求めます。意見の趣旨です。現在、生駒南小・中学校の今後について話し合いが進められています。生

駒南小・中の今後を考える会議、保護者説明会、住民説明会では、①小・中一貫教育（9年制）についての懸念や疑問②子どもたちが抱えている問題を正面に据えて欲しい③教職員に負担がかからないようにすること④校舎の老朽化への対応を期待する、などの意見が出されました。また、昨年11月28日の第24回生駒市総合教育会議では、市長もご出席でした。「地域でどんな意見が出ているか知りたい」「教育内容の議論が大事」「市民、保護者目線が大切」などの意見が出されました。それに対し、教育委員会側から明確な回答がありませんでした。生駒南小・中学校の教育の在り方の議論は出発したばかりです。このような中で、1月の教育委員会で方向性を決定することは、あまりにも拙速であり、無理があると言わざるを得ません。生駒南小・中学校の今後については、保護者、教職員、地域住民から出される疑問や意見を尊重し、建設的に議論していける場を継続して保証していただくことを要望します。以上、です。この意見書と一緒に皆さんにお配りした要望書というのは、我々3人だけではなくて、地域の住民約30名ご賛同いただいた方々の名前を並べております。この中には、近隣の自治会長さんも含まれますし、それから、地元の萩原町の5役以上の役員は全部名前を連ねています。こういう非常にたくさんのご賛同を得て、要望をしたいということでもあります。意見書の趣旨の中で、特に小・中一貫教育、9年制を行うということについて、1回目2回目の会議、それから住民説明会、保護者説明会においても、やはり疑問が呈されていきました。この点について、これを一定の方向性と決められるのは、時期尚早ではないかというふうに思います。それから、子どもたちが抱えている問題を正面に据えて欲しいというのは、コロナ禍で、非常に難しい学校運営が強いられている状況がある、それから家庭においても同じような問題がある。子どもたちのこの抱えている現状を、もう少しきちんと見つめていただきたい。それから、教職員に負担がかからないようにする。これは、マスコミでも言われているように、先生方のご負担がすごく大きく休職者がいる。あるいは、積極的に先生になりたいと思う人が少なくなっているという現状も聞いております。これは、学校現場に大変な負担感が

あると考えるもいいかと思うのです。それから老朽化については、良いものに建て替えたらいいのではという大体の皆さんのご意見ですけれど、ただ一体型にするのか、子どもたちに合った建物にするのかという、教育の根本的な問題が十分に討議されないまま、建物をどうするかというのは違うのではないかという問題があるのですが、ただ老朽化への対応を期待はしています。もう少しきちんとした議論を踏まえて、教育委員会でも方向性を決めていただきたい、方向性を決定するのは早すぎるのではないかという趣旨であります。なぜかという、いろんな方々にこの問題を知っていますかと聞いたら、いや初めて聞いたという方が大変多いです。

(参加者) 補足説明させていただきます。11月28日第24回生駒市総合教育会議で、地域でどんな意見が出ているかというような教育委員の問いに対して、教育委員会側が十分に説明しているとは思いませんでした。だから、地域の意見とか、いろんな考えを組み取っている決めていくというのは、一体どこまでなされているのだろうかという疑問が湧きました。教育長からの挨拶の中で、十分意見を組み取って反映してやっていきたいというのは何回も出ていますので、それは十分汲み取っていただけていると思っていますが、そういうようなことが現実にあったので、あえて意見書に書かせていただきました。

(参加者) 意見書については、もっともな意見が入っていると理解しております。ただ、【資料1】今後の方向性について、1施設の方向性で、もう50年以上経って大変だということで、ここへ参加しておられる方は多分わかっているかもしれませんが、生駒市教職員組合生駒南小分科会から生駒市の教育充実を求める署名を自治会でも回覧して、だいぶ署名はいただいております。この中にも書いてあるので、読みますと、私達教職員組合では、今年も生駒市の教育充実を求める署名を実施することになりました。この署名は、全ての子どもたちが確かな学力と豊かな心を持ち、健やかに育って欲しい、安全に学校生活を送って欲しい、そのような願いから、毎年やられています。この前、皆様方のご協力により、昨年度は1400筆以上の署名が集まりましたと報告がありました。生駒市では、小学1年

生において30人程度学級が実現しております。それから、コロナ禍において、パソコンやタブレットなどを利用した学習保証もいち早く実施されました。これ本当にありがたいことだと思っています。南第二小学校では、はばたきタイムというのがあります。パソコンで、私が担当している花を勉強していこう、この花は何ていう花かなど、パソコンでぱっと調べるのですね。非常に早いときから、子どもたちがこういう取組をやれば、柔軟性があると思っています。それから、南小学校においては、校舎の老朽化に伴って多く出てきている不具合箇所の修理など、子どもたちにとって必要な学習環境を整える努力もされています。南中学校の方も非常に校舎が古くて、前の校長先生に聞いたことあるが、雨漏りがあって大変ということで、校舎の建て替えを優先してやるような方向性は必要だと思います。この意味での施設の方向性、それから、今現在、全世界はもうグローバル化になっています。私達は中学生になってから初めて英語の勉強をして、文法や発音、ローマ字を覚えるということだったが、今世界で通用する日本人になるためには、英語を話せなければいけないというようなことも早くからやる必要があるのではないかと考えております。それからもう一つは、校舎の建て替えに当たっては、今まであまり聞かなかつたが、国から補助あるのでしよう。国から補助してもらうためには、いつまでに、ある程度の方向性を出さないといけないのか、これがここで言われている、1月なのか3月なのか、もう少し先なのか。補助がないと大変なことになると思います。

それから一貫教育について、まだまだ始まったばかりだから、いろいろ難しいところがあるかもわかりません。一貫教育についての疑問や、9年制がどうかとありますが、初めて新しいことをやるのだから、確かにいろいろな疑問があると思いますが、そこに果敢に挑戦して行って、生駒南小・中学校が全国のモデルになるような形に進めていく必要もあるのではないかと考えております。だから、まず学校の建て替えは最優先にやっつけていかないといけない。

それから、校区の方向性は、これは絶対にやって欲しい。南中学校にボランティアで行って、いろいろ聞きますけども、いろんな部活

動が十分できていないというのがある。いろんな方向で部活動も変わるからと話は聞いたが、なかなか実際進んでいないところもありますので、そういう意味でも、一貫教育、モデル学校として、国から助成がもらえるような形でやって、そして、子どもたちのために良い環境づくり、良い教育をしていきたいということを言われていますので、先生が不足するという場合は、それは教育長あるいは教育委員会の方で補充しながら、上手くいくように考えて行って欲しいと思います。

いずれにしても、いつ学校が建つかわからない、審議して延ばすと希望が持てない、逆に学校の先生たちも、いつ頃だったらできるとなると、また教育の姿勢も変わっていくのではないかと、今は先生方も迷っているという気がします。私の意見としては、是非早めに結論を出して、今後は検討委員会を開きながら細かなことを検討していく必要があるのではないかと、そういう形で進めていただければありがたいです。

(参加者) 意見書を拝見させていただいたのですが、この意見というのは、既にこれまでの経緯の中で意見を求められて、そこで十分検討されて、今後の子どもたちに対する教育をどうしていこうかという話だと思えるのです。今頃こういう意見を出されても、これまでの経緯の中で意見は出されていないのですか。もう終わっている話でしょう。

(参加者) 今日は3回目ですけど、1回目にしても2回目にしても、一貫教育ということに、いろいろ議論があったと思います。保護者の説明会、それから住民説明会の中でもいろんな疑問が呈されました。それで、教育長がいろいろお答えになりましたけれど、おそらく住民の方々には、一貫教育について何だろうと、十分に理解されているとは思えません。これは、一貫教育が本当に子どもたちのためになるのか、ならないのか、先生方にとってはどうか。北小中学校の現状について、校長先生からお話を聞き、見学に行きました。そのとき、一番に思ったのは、ここは小中一貫でやっておられるけれど、非常に少人数教育であると。1クラスずつ20数人が学んでおられる。先生方もおそらく、かなり行き届いた教育がなされているという印象を受けました。ということは、一貫教育が成しているのでは

なくて、少人数教育が成せるのではないかという印象でした。そういう意味で、一貫教育は、すなわち子どもたちのため、先生方のためになるとはとても思えない。まだ議論が足りないのではないかと思います。

(参加者) でも、近大付属小学校でも、だいぶ前から一貫教育やっていますよね。それが良いから、国も進めていこうということでやっているし、今更、これまでの経緯で終わっている意見を、ここで出してどうするのですか。もう終わっている話でしょう。その問題等を今後どうしていくか、この決められた教育方針の中でどうしていこうかという建設的な意見を出した方が良くと思うのですが。

(参加者) 1回目、2回目の会議のときには何も言わなかったのですが、今日意見書も見せていただいて、中身については十分理解はできると思うのですが、根本的に今の小学校、中学校、別々に学校があって、教育されていますよね。一貫校になったら何か変わるのでしょうか。一貫校になったら、今の小学校、中学校の教育課程のシステム自身がガラッと変わる、大きく変貌するというのであれば、これは我々だけの問題ではなしに、文科省の問題になってくる。私自身は、施設一体型であろうが、分離型であろうが、隣接型であろうが、小学校、中学校で教える中身、子どもからは教わる中身について、何ら変更はないと思っています。変更あれば、これは大きな問題だと思うのです。

ただし、そういうふうに一貫校にしていって、例えば施設一体型でやっていけば、確かに今まで出てきた教職員への負担とか、いろいろなことが出てくるのは確かだと思います。ただ、意見書の4つ目の中に、校舎の老朽化というのもありました。もし、一体型をつくらずに、今のまま小学校と中学校を別で工事をしていくとなれば、子どもへの負担はものすごく大きくなる。例えば、南小学校の古い南校舎から工事をしたときに、子どもをどこへ移転させるのですか。東校舎がありますから、ギリギリ行けるかもわかりませんが、北校舎の隣でガンガン工事やるわけですよ。南中学校にしてもそうです。工事の横で勉強しなくてはいけません。そういう負の面も考えていく。それともう一つ、近所の方と話はしていたのですか、少子化

になっていったら、統合は今のところ据え置かれましたが、予算もあることだから、一貫型の学校になっていくのは、仕方ないことではないかという声もお聞きします。校舎の老朽化と関わって、教育内容が変わらないのであれば、私はこのまま進めて行って欲しいと思います。小中一貫校、いわゆる施設一体型にするのであれば、小学校か中学校のどちらか先に壊して、残ったどちらかの校舎で、小学校、中学校はお互いに生活していく中で、絶対必要になってくるのは小・中学校の先生方同士の連絡です。同じ学校に一時的に一緒になるわけですから、その2、3年の間に、正式に一貫校になったときの前段階のいろんなものをつくっていきけるのではないかと考えております。そういうことから考えていくと、私は一貫教育については、100%の賛成とは言いません、80%進めて行って欲しい。あと20%は、少し考え直して欲しいところがあるのです。不満の20%、1つだけ言わせていただきますと、前回、校区の編成について、竜田川より西は一応、南中校区というふうになっているのですが、東山は大瀬中校区となっています。なぜ東山は大瀬中学校なのでしょう。秋津と向かい合っています。電車で通学しようと思えばできます。大瀬中学校は坂を上って、南中学校は平坦で来れます。もう少し、融通の利く選択制にしてもらえないか。萩の台でも駅の近くは南中学校の方が楽です。そうすると、南中学校の子どもが少ないことも、ある程度見込みが増えるのではないかと考えていますので、もう一度継続して考えて欲しいと思っております。

(参加者) 一貫教育について、この方向性で、というようなことを何回も出されていますが、具体的に委員会として、どういう一貫校を考えられているか明確に聞きたい。

(教育長) まず、教育内容ということで、私学では小学校から中学校の内容を取り入れ、独自のカリキュラムをつくって、違う教科書でということはされていますが、南小・中学校は公立の小学校、中学校であるからには、教育内容に関しては全く他の学校とは変わりません。どこから転校しても、どこに転校されても、それは日本国中、学習指導要領に決められた内容を教育していくことは同じです。この意見書の中にも、9年制と書かれてあるのですが、9年制をす

るということは全く言っていないです。9年制で、一貫教育を進めるということは申し上げていないはずですが。視察に行った王寺北義務教育学校は、義務教育学校ですから、9年制ということで4・3・2制をとっておられますが、生駒北小中学校は、北小学校と中学校なのです。通称、北小中学校ですけれども、小学校は小学校、中学校は中学校という括りの中で、校舎一体でされています。教育内容に関しては、その基になるのは、生駒市の教育大綱ですから、ICT教育などの様々な教育内容についてはもちろん、各学校での特色ある学校教育は、それぞれの校長の基に考えてもらっていますが、学習内容については同じです。

ハード面の校舎につきましても、いろいろな考え方があると思います。北小中学校や王寺のように、階によって学年を変えるという方法もありますし、校舎を別々にするという方法もできます。それは、これから、どういう環境をつくるのが良いのか、そのための準備会・検討委員会をしながら考えていきます。それから、小中一貫教育というのは特別なものではなく、何度も申し上げているように、全ての学校で今、取り組んでいることなのです。これは、既に生駒市の教育委員会として決定していることで、それぞれの学校で現在進行形なのです。この南小学校、南中学校もそういう意味では、もう現在行っております。一貫教育という言葉を使っておりますが、王寺のような4・3・2制にするとか、カリキュラムを特別につくるとか、そういう捉え方ではないということをご理解いただけたらと思っております。そこに何かご理解いただけないところがあるとこの意見書を読ませてもらって感じております。この意見書に書いていただいていることを、全て当然理解もし、同じ思いでいます。例えば、教職員に負担がかからないようにというのは、もちろん私達自身も考えていることで、今北小中学校の先生方がしんどい思いをされているのかというと、全くそういう声も上がっていませんし、むしろ北小中学校に転勤したいという声は非常に多いです。そのあたり、辻本先生、以前北小中学校で教頭先生されていたので、小中学校になることによって、先生方の負担というのは懸念されることなのではないでしょうか。

(辻本教頭) 前任の生駒北中学校で教頭をさせていただいていました。

今あったご意見ですが、先生方の負担感というのは、施設一体型の一貫校をしているからといって、高まっていることはありません。むしろ、施設一体型で、職員室が一緒ですので、いろんな意見を交わすことができますし、ちょっとした時間のタイミングで、運動会どうしようか、文化的な発表会はどうしようかということが、さっと話ができ、実行にすぐ移すことができます。また、吹奏楽が演奏するというようなことも、小学校に連絡しながら、サプライズで行ったりと、本当にスムーズにいきます。先生たちは、いろんなことを前向きに考えてやっていただいていますので、2年間いましたけど、負担感はあまり感じていませんでした。

(教育長) ありがとうございます。それが、3つ目の意見のことですよ。2つ目と4つ目に関しましては、本当にこの通りで、子どもたちが抱えている問題、例えば不登校や、いじめ、生徒指導上の問題、また、それを心配される保護者への対応、先生方のいろんな取組の中で、より小中一貫教育を進めることで、全ての学校で、小学校と中学校の情報交換、情報共有、またいろんな先生方が関わっていくということを進めていかなければいけないということを市としてもやっておりますし、それを小・中学校、同じ敷地内にすることによって、メリットが多いのではないかと考えております。その辺りを、【資料1】の方向性の中に、教育委員も地域からどんな意見が出ているのかと、教育内容の議論や市民・保護者目線というところで、この会議録であったり、地域説明会や保護者説明会の議事録であったりをしっかりと目を通していただきながら、これは、事務局案ではなくて、教育委員がこんなふうにしたらいいいのではないかという意見、やはり小中一貫教育の考え方について不安な意見が多いので、小中一貫教育のメリットのところを、この方向性の中に入れていってはどうだろうかということで、見ていただいたらわかりますが、ずいぶん変わってきています。毎回、加筆修正、加筆修正ということで、また1月の教育委員会、総合教育会議に出される案につきましても、加筆修正があるかと思えます。そういう意識を持って、そういう意図を持って、今作成している途中であるということをご理

解いただけたらと思っております。この意見書、要望書に書かれていることは、同じ思いだということもたくさんありますので、この方向性の中に組み入れているということをご理解いただきたいと思えます。

(参加者) 質問の仕方が悪かったように思います。小中一貫教育と、義務教育学校の9年制を見させていただいて、いろいろな疑問を覚えているわけです。一貫教育は、どういう形でもなされていく方向にあると、それはもう十分わかっています。ただ、校舎は、どういうハード面でやるのか。北小中学校の非常に小さい1学年に1学級という形では、当然運営しやすい部分は出てくると思いますが、まだ南小、南中学校の場合は、一定の規模もあります。それから、小学校と中学校を1つの建物にした王寺はかなり大きいですが、ああいうのはやはり教育上よくないと僕は思います。どういう根拠かと言いますと、やはり、小学校は小学校の課題があります。中学校は中学校の課題があります。それに対して、教育段階は全部決めているというのは十分わかっていますが、いろんな課題に対して、きちんと小学校は小学校の責任、中学校は中学校の責任、連携をとりながらそれを克服していく形で、小学校、中学校がより独立した、隣接の学校として建て替えてくれたら、まだ納得します。それを1つの学校でやったときに、建物は非常に綺麗だけども、学校運営や教育的なことをやっていく上で、チャイムの問題とか運動場の問題とか、いろんな課題があります。この資料の中には、メリットしか書かれていません。だけれども、文部省の教育研究所でも、デメリットもいっぱいある、それを克服しながら、やらないといけないというようなことも載っています。そういう意味で、義務教育学校ではなくて、1つの形の校舎だけはやめて欲しいというのが意見です。

(教育長) 義務教育学校にするということは一切言っていないです。義務教育学校にするという前提はないですので、そこはご理解ください。先程から何回も申し上げていますが、義務教育学校9年制ということは、一度も言っていないです。視察に行った学校がそうであり、王寺町はメリットしかありませんとおっしゃったということは、覚えていらっしゃると思うのです。「9年間を見通した」というのは一

貫教育のあり方です。それと、9年制という義務教育学校とは違います。それは、全く別なものです。

(参加者) 校舎も、もう50年経過していて、もし大地震が起こって校舎が倒れたら大変なことになるので、建替は近々の問題です。建て替えるという前提で考えますと、南小、中学校は隣接しています。コミュニティーセンターも近くにあります。施設の方向性に書いていますように、地域住人や市民が学校施設を有効に活用し、市民と学校が連携して育てていくという意味では、この南はすごく良い立地条件だと思うのです。極端な意見ですが、小・中学校とせせらぎも繋げて建て替えてしまう。そういう全体的な施設にすると、すごく夢が膨らんでいって、全国的な、モデル的な環境になるのではないかと、夢がいっぱいな地域だと思っています。

(参加者) 【資料1】今後の方向性について、(2)の施設の建替に当たっては学校教育と社会教育が融合した、多様性のある学びが実現できる環境づくりを進めて行くということに大賛成です。せせらぎとの連携というのも賛成です。(3)にもあります、学校の建て方も大賛成です。ただ、(1)本市が進めている小中一貫教育を一層推進できる施設と、ここが曖昧だと思うのです。例えば、住民説明会【資料2-2】に、一貫校のイメージ図がございます。そこには施設一体型、施設分離型、真ん中に施設隣接型、この三つが呈されているから、一貫校と言っても、いろいろな形態があるというふうに書かれているわけです。この選択については、まだ保留だということでしょうか。

(事務局) 方向性については、施設一体型というものを前提とした形でお話をさせていただいています。なぜ、施設一体型かという話なのですが、南小学校と南中学校が隣接をしていて、ほとんど一体の土地になっています。改修の際にも、国道308号線を通るのか、北側の道を通るのか、そういう問題もあります。1つずつの学校を触っていくと、1つの学校に対して3年以上が掛かります。順々に工事をしていくということになりますと、合計6年以上の期間がかかってしまいます。これを一体にすると、中学校の方が小学校の方に来たり、プレハブを使ったりと、小・中学校が1つになると、一度に工事が進み、期間的にも短く済むということです。新しい教育、新し

い施設を提供できるということで、この一体型というものを提示させていただいた。ただ、この考える会議をさせていただいたのは、そういうものをご理解いただけるのか。小中一貫教育の問題で、疑義がありましたが、9年間を見通した小中一貫教育というものを推進していく。小学校の6年間、中学校の3年間、これは全く変わりありません。現在も、南小・中学校では、この小中一貫教育というものを進めていただいている。そのときの教員の負担は、やはり、どちらかの学校に行かなければならない、調整もしなければなりません。北小中学校の方では、同じ職員室の中で、そういった議論がなされる。そして、速やかな対応を取って、小中一貫教育というのを推進していただいているところです。ですので、この施設につきましては、やはり施設一体型というものを視野に入れながら、進めていきたいと考えております。

(参加者) 施設一体型になった場合に、校長先生は小学校の校長先生、中学校の校長先生がいらっしゃるのですか。それは、今後考えていくのですか。

(事務局) 北小中学校については、今、北小学校、北中学校に校長は兼務で1人おられます。小学校籍で校長がおられて、兼務で中学校の校長をされています。教頭先生は、小学校に1人、中学校に1人おられます。このメリットは、小学校と中学校、元々別々なので、子どもの数、クラスの数で先生の数が決まるのですが、その時に校長先生が兼務されていますので、中学校の方が、1人枠が空いているのです。その分、教科の先生を1人入れることができるというメリットがあります。南小・中学校が、そういう形をとるかどうかというのは、今後話し合いながら、小学校、中学校も別々の校長の方が良いというのであれば、そうする形もできます。今の段階で決めているわけではありません。ただ、そういうメリットを北小中学校で見ているので、校長先生には負担がかかってしまう可能性はあるのですが、そういう形をとる方が先生への負担が少しでも軽減できると思います。

(参加者) 子どもがすごく少なくなってきた、これからのことを考えると、南小・中学校が魅力ある校区になると、新しい若い住民も校区編成以

外でも来てくれる可能性も高いと思うのです。校舎の老朽化ということが、もう本当に近々の状態だと思いますので、建て替えるにあたり、どういう教育内容にされるのか、それに乗っ取った校舎の建替や設計が組まれると思いますし、職員室が1つになるとか、そういうこともあるかと思うのですが、それで、9年制ではなくて、一貫校としての校舎を建てる形で考えていただいているのですよね。この地域が段々、古い住民の方ばかりになってしまい、若い世帯が少なくなっているから、コミュニティセンターとの兼ね合いなどで、何か魅力ある学校や校区、地域になったら、住民も増えて活気がまた戻ってくるのではないかと思います。どんな学校にするかというのは、これから考えていくということで、今は、校舎を一体型にするかどうかということの議論をしているわけですね。

(参加者) 従前から言われていました、校区の問題に一番関心があります。中学校の生徒が少なくなるのは、どうも理解できません。小学校と中学校は隣接しているのだから、歴史的な問題もありますし、お兄ちゃんお姉ちゃんの関係もありますから、調整区域をどこかで設けるとするのはやむを得ないことだと思いますが、中学校のクラブ活動に影響するほどの人数しかいないというのは、これは問題だと思います。同じような老朽化した校舎があり、隣接していて、北の側の道路は、片側一車線ずつですけれども、南側にすると、一方通行で非常に交通としてはしんどいです。小学校と中学校、両方とも南と北で端々に校舎があって、工事をするのは大変です。どう考えても、1つまとめて校舎をつくるというのは自然な流れだと思うのです。そういう意味で早急にやっていただきたいと思っています。

(参加者) 老朽化の対策については、早い段階で建て替えるべきだと思います。それには全然反対ではありません。それから、総合的な1つの文化的施設としての側面も当然持たすということは大賛成です。ただ、小・中学校の子どもが、同じ建物を利用することについて、例えばプール1つとっても、180センチの中学3年生と、それから幼稚園から上がったばかりの小学校1年生が、一緒のプールを使うというようなこと、それからクラブ活動について、これから先生方の負担を考えたら、地域で小学生も中学生が大人になっても、

スポーツが楽しめるような、そういう地域スポーツ化ということが、これからの日本社会の方向だと思うのです。それを、中学生のクラブ活動がどうかというのは、未来的ではない。ですから、グラウンドはその年代に合わせた大きさ、あるいはその用途を十分に考えられた上で設計されたら良いと思う。それから、文化施設や何かを発表する場合の講堂とかは、共用でも構わないと思うのです。だから、それが日本一立派な見学者がたくさん来るような施設というのは、年代に合わせた、本当に温かい、あるいは緑があるような、そういう設計を、これから未来像として考えるべきではないか、一貫教育と言っても、いろいろなものがあるので熟慮してから設計を考えるべきではないか、その時間が欲しいというのが、この意見書の趣旨です。ですから、ここに参加していただいている方も考えていただきたい。早急に一貫教育、一体型が良いというように結論づけていいのかというのが意見です。

(参加者) 今やっと、大体の方向性、教育委員会が考えた施設一体型ということはわかりました。それを、最初から言ってもらえばよかったのですが。9年間の連携のとれた制度で、小・中学校は9年制ではなくて、小学校と中学校でやる。ただし、設備は1つであるということです。私は何度も言わせてもらっているように、果たして王寺でやられているような教育はいいのかどうか、もっと議論して欲しいと思っています。文科省が、方向性を出して校舎を合体しますと、国からの補助金は2分の1出ます。一般的だと補助金が3分の1ですか。億単位のお金が動きます。市としては、当然財政的な面もあり、行政的な面で考えているとは疑いすぎでしょうか。

なぜ反対しているのかというと、2校ほど視察に行かせてもらったけれども、たくさん工夫をしないといけない、連携するのも非常に時間がかかる、準備時間がかかる、というようなことを聞いています。だから、チャイムの時間とか、遊ぶ範囲をできたら別にして、小学校は小学校の教育環境、例えば小さな森とか池とか最高のものをつくったらいいと思います。中学校は中学校に応じたような最高の物をつくったらいいと思います。それは大いに結構ですし、そうあるべきです。少なくとも、1つの大きい校舎で、1つの大きな職

員室で、私が見た限りは、それが子どもの成長段階が違う中で理想とは思いません。むしろ非常に問題があると思います。なぜそういう意見が出たのかをお聞きしたいです。

(事務局) 施設一体型の話ですが、まず、義務教育学校の話から先にさせていただきますと、義務教育学校の話し合いというのは教育委員会では一切されてないです。小中一貫教育の推進について、これまでずっと議論をしてきたということです。義務教育学校の施設を見に行きました。教育委員にまず、どういった形でやられているかというのを見ていただくということで、視察し、そのときにこの考える会の皆さんにもご案内をさせていただきました。以前から、義務教育学校の議論をされてきたかというのと、教育委員会では一切されていません。ですから、早急に義務教育学校にするということは、あり得ないと思います。義務教育学校のメリットは何かというのと、補助金については、確かに2分の1近く出ます。通常の学校、小中一貫教育をする施設一体型にしても、3分の1というのは基本的な補助金の率になっています。義務教育学校になるということであれば、小学校の先生が中学校で教えたり、中学校の先生が小学校で教えたりということのメリットがあるので、施設についても、補助率を高くしているのは、文部科学省の補助率の話です。今度、生駒市が施設一体型を選んでいくこと、この方向性の中にも書かせていただいています。この南地区、南コミセンがあります。公共施設が固まっているところです。そういった中で、住民の方にもご利用いただける学校にしていくということは、市長も申し上げているところです。いろいろと学校を活用していただきたいということ、その一方で、少子化問題がどうしても否めない問題です。全国的な少子化、生駒市も昨年、出生率が低く650人余り、令和4年について、まだ集計が出ていませんが、700人を切っているという状況が市全体で起きている状況になっています。少子化問題も考えてはいますが、施設について、この立地条件で考えていくと、先程の道路の問題等もあります。1つずつをつくっていくということになると非常に年数がかかってしまう。これは、南小・中学校だけの影響ではなくて、他の学校の改修もしていけないといけない、並行してできるかとい

うと予算的なこと、平準化というものもあります。1つの学校を建て替えることで考えますと、30億以上かかってきます。それを2つつくるとなると、1つで集約をかけるものについてはかけていきたい、工事についても短縮をかけていきたい、そして次の学校の改修も進めていきたい、これが教育委員会の中での全体的な話になります。南小学校、南中学校をまず手がけていく。なぜかという、地域協議会から改修を早くして欲しいというご意見をいただきました。教育委員会事務局も同じでした。小学校と中学校一緒に触っていくということ、非常に大きなプロジェクトになっていると認識しています。ですので、施設一体型と申し上げているところです。

(参加者) 皆さん、それぞれの意見はあると思いますが、小中一貫教育が良いのか悪いのかと、永遠に続くような、こんな議論をしていたら進まない。小中一貫でも、教育カリキュラムが変わらないということがはっきりしたら、学校を建てる上で効率的な建て方、一体型にならざるを得ないのではないかと理解をいたします。ただ、その中で、皆さん方が心配している小中一貫にしたら、先生の負担が増えると。その辺は子どものための教育で、教員を増やすような形でやっていただく。小中一貫の是非を言い出したら、いくら会議をやっても、結論がこの会議では出ないと思います。だから、小中一貫は一応決まっているという前提で、それで良い学校をつくるためにはどうすべきかということ、前向きに考えていく必要があるのではないかと考えております。次の検討チームで詳しいこと、細かいことをやってもらえばいいのではないかと、聞きながら考えております。

(大久保校長) 職員にも、意見は聞いていますので、学校が今取り組んでいることや、先生方から聞いた意見などを少しだけご紹介させていただければと思います。

まず、この施設のことについてですが、今、皆さんが居ていただいているこの部屋、とても綺麗だと思うのですが、この部屋は幼稚園と保育園が子ども園になるときに、しばらく幼稚園がここにいたということで、そのタイミングで改修されているので、とても綺麗なのですが、全体としてはもう修理をしても、しても追いつかないような状況で、雨漏りもひどいし、どこから漏れているのかすら、わ

からないというようなことも言われながら、毎年ちょこちょここと修理をしています。もう修理するのも勿体ないぐらいの状況ではあるので、施設の評価がBだとかCだとかというような意見も前に出ていましたけれども、もう学校としても、それから教員としても、とにかく校舎の改修というのは早急をお願いしたいというのは全教員の共通の願いでもあります。教室の床とかもすごく傷んできていて、子どもたちがこすって怪我をするようなことも起こっている状況ではあるので、安全面も考えると建替のことについては、早急に進めていただけるとありがたいと思っています。

そして、2番目の小中一貫教育のことですけれども、学校としては、小中一貫教育は既に始めているつもりです。小中一貫教育というのは、小中連携の1つバージョンアップしたようなイメージで捉えています。特に南小学校は、6年生の卒業生の7割から8割近くが、南中学校に行きます。残りの子たちが大瀬中学校に行くような、毎年そのぐらいの人数割りです。南中学校には南第二小学校の子も一応来ることになっているのですが、毎年1、2人、多くても3人、ゼロのときもあるような状況ですので、南小学校の子イコール南中学校の子というような感覚ではあります。そんな中で、子どもたちが持っている課題だとかというの、やはり南小学校、南中学校は共通するところがたくさんあるということで、もう小学校と中学校で、いろいろなことを連携して進めていかなければならないということで、コミュニティ・スクールが始まったタイミングで運営協議会の方も合同にさせていただいて、共同で運営しています。

小学校と中学校、お互いに目指す子ども像、目指す学校像、それから目指す教師の姿というの、お互いのことを知り合いながら、相談をして、今年度の年間の学校運営方針も立てながら進めているところです。そういう意味でも、もう既に小中一貫教育に向けた取組は始めているつもりです。学習指導要領の方にも学校段階での取組ということで、義務教育の9年間を見通した指導が必要であるというようなことが書かれていますので、小学校としては今、目の前にいる子どもたちが、中学校の卒業のときにはどんな姿になっているのかを考えて、指導していかないといけないと思っていますし、中

学校の先生たちにも、その子たちが小学校でどういう学習を積み重ねてきたのかというのを知ってもらった上で、指導していただけたらということも思いながら、教科ごとで授業を見せてもらいに行ったり、また小学校の方に見に来ていただいたりとか、そういったことも今進めているところです。小学校は中学校に向けて、専科制をたくさん取り入れています。担任が主に指導するということはもちろんなのですけれども、1年生だけが全教科を担当が担当しています。2年生から、教科の専門の先生を入れて、学年を追って6年生では、1週間で8、9時間違う先生が担当するという専科制を取り入れて、中学校に行ったときに、教科ごとに違う先生に指導を受けるというところに戸惑わないように、そんなことを少しやっているところです。卒業する子たちの引き継ぎにも、すごく時間をかけて中学校に引き継いでいます。もし、同じところで学べるのであれば、日常的に中学校の先生にも関わっておいていただければ、もっと子どもたちのことをよく知った上で、中学校の生活がスタートできるのではないかというようなことも、先生方から意見が出ていました。これからも小中連携を一步進めた、小中一貫教育というイメージを思っていますので、そのことについては、今後も続けていきたいと思っています。

それから、最後の校区のことについては、やっぱり過去に6年生を持った先生からは、保護者の方から中学校で部活やりたいのだけでも、なかなかできる部活がないとか、南中学校は人数少ないから、人数が多い大瀬中学校の方に行きたいという声があったり、逆に小瀬町で南生駒駅近くの方でしたら、見えているのに南中学校に行けないのはなぜかというような意見を聞くことが、とても多かったということも先生方から話が出ていました。そんなこともあって、今回校区について見直しをされるというのは、小学校の教員からも大歓迎であるというような話が多かったと思っています。今小瀬町と壺分西だけが出ていますけれども、萩の台の端の方とかもこっちに来た方が近いところとかあるのではないかという話も出ていましたので、これで最終決定ではなくて、全体的なところで、もう一度、柔軟な対応を考えていただけたら嬉しいということは、先生方から

意見が出ていましたので、お伝えしておきたいと思います。

ということで、学校でお話をさせていただいて、今こんな感じで進めています、というお話をさせていただきました。また、今後とも皆さんに協力をいただきながら、小中連携を進め、そして9年間を見通した指導というのは続けていきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

(眞井校長) 中学校の方も、この会議が始まりまして、皆さんから先生方はどう思っているのか、また先生方の負担感という話をいろいろ出していただいていたので、正式な形ではありませんが、私の方で先生方からいろんな意見をいただいてきました。やはり、会議で出ている意見と同じような心配な部分と期待できる部分の意見を聞かせていただいたのかと思っています。

その中でも、小中一貫教育に関しましては、先程校長先生の方からもありましたように、もう既に始まっているような状況の中で、中学校、小学校ともに密に連携を取りながらやっていく、今後もあり新しい形でどんどん進めていくということを前提にやっていく中で、今の状況、今のような形であると連携が非常に取りにくい。逆に、子どもたちに良い教育をということで、連携を取って、いろんなことをやっていくことに対して、教師の負担感が、今の形であれば逆に高まっていくような傾向があるのではないかという意見が出ています。南中学校に関しては、生徒数も少なく教室も少ない中で、子どもたちを見ていくと、いろいろな弊害がある分、義務教育の9年間を多くの教師で見たいけるということは、子どもたちにとって、すごくメリットが高いのではないかと、多種多様化する子どもたちに、9年間いろいろ関わる先生が増えていくことによる部分でのメリットは、すごく大きくなるのではないかと意見も出ていました。

校区の部分では、このままだと、南中学校の方は1クラスになってしまって、子どもたちがクラス内で何かあったときや、クラス替え等がないという中で生活になっていくと、心配な面が増えていきます。そういう中で、校区を見直すことによって、また見直すだけではなく、隣の大瀬中学校とは違ったような特色ある学校、そこに

魅力を感じる保護者の方も出てこられると思います。調整区域の方が、より行きたい学校に選ばれるような学校づくりをしていくことによって、クラブ数が増えたり、子どもたちがいろんな活動できる環境というのが整っていくのではないかとということで、先生方は、子どもたちのことを一番に考えてくださるので、子どもたちに合った教育ができる形が、先生方の負担も減るような形に繋がっていくのではないかと意見をいただいています。先生方の中では前向きな意見を私は聞いています。

(参加者) 保護者の方への周知、これは、この方向性について自治会回覧と書いていますけど、これをもってされるということでしょうか。それとも何か別途、保護者に向けてお知らせはあるのでしょうか。

(事務局) 回覧については、これまでの経緯と方向性が決まった場合に、皆さんには通知をさせていただく回覧という形をとらせていただこうと思っています。ただ、並行して進めていきますということ、教育委員会に提示をさせていただいて、この会議については、本日をもって、最終とさせていただきますが、新たに準備会というものを進めていく。その準備会の経緯や、どういったことになっているかというものが、定まってくるようであれば、またお知らせをさせていただかなければならないとも思っております。ですので、水面下で物が運ばれているわけではなくて、皆さんの意見を持って、準備会を進めながら、こういったことが決まってきました、こういった協議が行われました、というような通知をさせていただきたい。今回の決定については、やはり何らかの形で出していけないといけないと思っておりますので、方向性の最終的な決定は、自治会の回覧をさせていただくということで、ご理解をいただきたいと思います。

(参加者) たくさん意見が出たので、ずっと聞かせていただいていたのですけれども、一番初めに話戻りますが、意見書と要望書を出させていただいたというのは、この会議を何回か重ねて、保護者向け説明会、住民向け説明会という話し合いを持たれる中で、一生懸命、意見を言ってきたのですけれども、それに対しての明確な返答がなくて、最適な教育環境を提供すると言うけれども、何を目指しているのか、何をもちって最適と考えているのかというのがわからなくて、今日お

そらく、9年間を見通したというキーワード、見通した教育というのがどういうことなのか、校長先生からもお話を聞けましたし、それが、ちょっと私たちが思っていたのと違っていたというのが、やっと具体的に聞けたとすごく感じています。

ただ、施設のことに関しては、これからまた話をしていくのだというのを何回もおっしゃっていますけれども、本当に不安はたくさんありますし、小学生と中学生が同じ校舎に居るなんて、今の子どもたちのことを考えるとちょっと怖いですという保護者の意見もたくさん聞きますので、そういうことに関して、もっと活発に保護者も参加できるような会を持っていただきたいということと、あと周知に関してなのですが、今日のこの会議も回覧が回っていないはずで、口コミで、傍聴に来ていただいたりとかしていますので、こういう周知に関しては、特に保護者に関しては、是非参加できるような形にしていきたいと思っています。

それで、この会議で結局どのような方向性を打ち出していくのか、この会議をやったのは、どういう意味があったのかをお聞かせいただきたいと思います。

(教育長) この後は、予定にありますように、今月23日月曜日の午前中の総合教育会議で、午後から教育委員会の定例会ということで、【資料1】の部分を決定していくということになります。内容につきましては、非常に幅を持たせたもので、この12月の段階から、教育委員からいろんな意見が出されていますので、加筆修正をします。それを決定していく過程の中で、総合教育会議を行いますので、市長や教育委員には、簡単にまとめたものはお渡しをして共有をさせていただきます。この会議はあくまでも会議であって、決定機関ではありませんので、会議で出された意見というのは、しっかりと私達が受け止めて、今後に反映させていただきます。

(参加者) 保護者としてすごく気にかかっているのが、コロナでこの3年間、環境が激変しまして、保護者としても、学校の先生方も、きっとそれぞれの学校で一生懸命考えて、やってくださっているのだらうなということをひしひし感じながら、3年間過ごしてきたのです。もう毎日のように新聞でいじめとか自殺とか不登校も、体力低下と

かも全部過去最低になっていて、それをこんなふうに建替をして、より安全な建物、より子どもがのびのびと学べるような、先生方にも目を配っていただけるような建替をするのは、何の反対もないのですが、教育委員会の皆さんが、今子どもが置かれている状況をどんなふうを受け止めておられて、新しく打ち出している小中一貫教育というものが、今の子どもたちのどんな課題に対して良いのか、その点を聞かせていただきたいです。

(事務局) コロナのこともありますが、いろんな問題が生じているのは確かです。ただ、簡単にはお答えはできないと思うのですが、問題行動調査や学力調査の結果、各学校のいじめアンケートのデータを見ながら、コロナ前とどう違うのかということは、常々考えさせてもらっています。大事なのは、先生方に早く子どもたちの変化に気づいてもらって、子どもたちが自分の思いを伝える、そういう環境をつくっていかねばいけないということです。いろんな先生に入ってもらったり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの外部の方を呼んだりという形で、いろんな人の目を持って子どもたちを見守っていく。コミュニティ・スクールもそうです、地域の方々の見守りも大切にしてもらいながら、進めていかねばいけないと思っています。そんな中で、いろんな子どもたちがいますから、たくさんの先生が目を見た方が、自分が相談しやすい人に相談できる、そういう環境をつくっていかねばいけないと思っています。先生だけではないとは思いますが、人的な配置であったりとかは、今後も我々は考えていかないとはいけないと思っていますので、できるだけたくさんのいろんな方々で子どもたちを見守っていかねばいけないと考えています。

(教育長) 子どもたちの実態については、毎年、問題行動調査ということで不登校、いじめ、それから様々な生徒指導の問題の調査、また4月に小学校6年生、中学校3年生の学力学習状況調査が行われます。その中で、学校それぞれの課題や成果はあるのですが、状況調査をする中で、例えば自尊感情が低いとか、なかなか自分のことを認められないとか、学校に対しての楽しさなど、各学校でも子どもたちにアンケートを取って調査をして、また保護者の方にもお話をさせてい

ただ機会やホームページを通して、それぞれの課題や取組というのは出しています。その上で、このような課題に対して、多くの教員が関わっていくということも1つですし、この一貫教育を進めていく中で、今少子化で、なかなか子ども同士の関わりが少ない、また、南小学校も中学校も小規模とまではいかないけれども関わりが少なく、人数が減っていく中で、上級生と下級生、中学生と小学生が関わることによって、自己有用感や、上級生を見て下級生が目標や憧れを持つなどの効果は非常に大きいのではないかと感じております。実際、北小中学校の先生からも、そういう話は聞いておりますので、まさに、意見書に書いていただいている子どもたちが抱えている問題を正面に据え、その実態からも、この9年間を見通した小中連携、小中一貫というのは非常に有効に子どもたちに働いていくのではないかと考えています。そのことを、この方向性の中でできるだけわかりやすく、お伝えできたらということで、教育委員の皆様も小中一貫教育の効果というのを市として進めていきたいという思いを伝えたいと考えておられます。

(参加者) 保護者説明会を11月6日に開催して、参加者20名足らずと聞いています。メールとかいろいろお知らせされたと思いますが、それで十分、この趣旨が伝わったと思いますか。

(教育長) 何をもって、誰に対して、十分にということはあると思いますが、この説明会が、最初で最後では決してないわけで、これから準備委員会をしながら、説明会を継続してやっていくということはお約束いたします。

(参加者) まだまだ説明をきちんとやっていかないといけないということですね。わかりました。次は、住民説明会です。これは12月25日、非常に関心ある方が40名おられました。いろいろな意見が出たけれども、はっきりした返答を我々は聞きませんでした。これだけで良いでしょうか。

(教育長) 決してそれで良いとか、悪いとかということではなくて、今そういう状況であるということはしっかりと受けとめながら、ご指摘いただいているように、広報の仕方であったり、より多くの方が関心を持って、一緒に考えていただく機会はこれからもしっかりと取って

いきます。

(参加者) それはわかりました。これからもお願いします。ただ、残念なことに、この会議を今日で終わらせて、一定の方向を決めるということです。この会議についても、こんなので良いのだろうかというものをいっぱい感じます。総合教育会議、定例の教育委員会で最終的に決めるというのですけども、ここを出た、いろんな人の意見、いろんな意見を、きちんと載せて欲しいです。この会議の資料でも、ほとんどこれまで述べているようなことが出ているとは感じていません。だから、方向性が、今日わかったのですが、施設一体型に反対している。なぜならば、教育段階で、小学生、中学生が一緒なら、あまりにも無理があるだろう。その意見を出してください。出した意見を、総合教育会議にまずあげてください。前の総合教育会議には、全然出ていなかった。説明も何もありませんでした。それで、意見を聞いているというふりはしないでください。

どういう段階で、納得しているかと言ったら、早く、良い施設をつくることは納得しています。ただ、施設一体型はやめて欲しい。分離型をやって欲しいということを言っているわけです。そういう意見があったことをきちんと上に出して欲しいです。

(教育長) それは言っています。議事録は全部ホームページに上げて、教育委員、市長に全て読んでいただいておりますし、この会議の後は必ず理事者、また教育委員に報告をしています。会議の中では、時間的なこともあるので、そういうことがありましたという報告はしていませんが、参加者は、内容を全て把握しておられることを前提に進めております。

(参加者) 施設一体型というのが、建物が1つで、そこに小学生と中学生が一緒に入ることを進めておられるということではなくて、敷地内で別棟もあり得るのですよね。

(教育長) それも含めて、これから検討するということです。

(参加者) 今まで一生懸命質問しているのですけど、はっきりとしたそういう答えが聞けなくて。

(教育長) いろんなやり方がありますということを説明しています。階を分けてやることもあるし、小学校の校舎、中学校の校舎、間に共有部分

というやり方もあるし、いろんなところにこれからも視察へも行き、勉強をしながら、皆さんと考えましようと言っています。

(参加者) わかりました。もう一つ、意見を上げていないというより、委員会で教育委員が、地域の方からどんな意見が出ているのですかと質問されたのです。そこで、それに関して、もう住民説明会も終わっていますし、保護者説明会も終わった後で、前向きな意見ばかりで賛成ももちろんあるけども、不安の声も結構ありますと言、さっと言ってくれるのかと思ったら、それに関してはメールで送らせていただきますので、というので終わってしまったのです。それに非常にわだかまりが残りました。そこですぐ、こういう意見がありますと言っただけしたら、我々も納得できたのですが。

(教育長) それにつきましては、その後で、全て会議録をしっかりと読んでくださいということをお伝えしており、それに対する意見をいただくプロセスは絶対に踏んでいます。私達が変に要約をして、教育委員にお伝えしても分からないので、まずは会議録を読んでくださいと、そして、理解していただいたことを前提に進めていきます。

(参加者) 我々としては、そのような事情もあるでしょうけれども、詳しくなくてもいいので、こういう意見が出ていますと言っただけで、という気持ちをお伝えさせていただきます。

(参加者) 最初に、提案をさせていただきました意見書についてですが、南第二小学校の学校再編に関わる地域協議会というのはございます。そのときに、その地域協議会、ちょうどこの考える会と同じように、何かを決める会議ではなくて、そこでいろんな考えを確認し合うという会議体でしたけれど、最終的に、その結論をまとめておられて、それを教育委員会に出された。ですから、その会議体としての総意がそこでまとめられたと思うのです。ところが、今回の考える会議では、意見は聞きおきます、教育委員会で方向性は決めるとなっていますよね。この違いというのは疑問で、それについてどう考えるかをお聞きしたい。

もう一つは、意見書の内容の3項目について、もう少し議論が必要ではないかということです。この3回で会議が終わってしまうのではなくて、もう少し総意をまとめるようなことをしなければならな

いのではないか。それから、今回についても、回覧できちんと周知をして、傍聴できますというようなこともなしに、なかなか参加も難しかったというふうに感じます。住民説明会については、1回きりです。今日、初めてぐらいに、いろいろな意見交換があったというふうに考えています。先程、施設一体型と一貫教育というのは、いろんな形態ですのだというお考えをはっきり述べられて、そうなのかという感じです。今までそれはわからないし、この文章でもわからないのではないのでしょうか。ですから、もう少し明快に説明されたものでないと住民、あるいは保護者はわからないというふうに思いますが、その点どうでしょうか。

最後に、この意見書の採択ということをお願いしていますが、これについて、採択していただけるのでしょうか。それとも採択していただけないのか。あるいは、この意見書を教育委員会で報告していただけるのかどうか、この点についてお答えいただきたい。

(事務局)

先に、地域協議会のときの流れと、今回の流れの違いなのですが、地域協議会ときは、まず意見書をつくってくださいという話を前提にお話し、会議体を始めさせていただきました。今回の会議につきましては、いろいろな意見が多分出るだろうという想定のもとで、それをまとめた上で教育委員会に持っていくというのが良いのか、やはり少数の意見も含めて持っていくのがいいのかというところがあると思うのです。

先程、一言そういうのを言っていただけるだけでも変わるのということをおられたので、私どもが考えているのと違う意見を言われることも含めて、全て意見書にまとめてしまうと、保護者の意見、地元の意見のうち、反対の意見などが、消えてしまう可能性もあるので、それだったら意見書としてまとめなくて、会議録をそのまま見ていただく方が、お声が届くのではないかと思います。意見書として出すと、これが全部になってしまい、南小・中学校の今後を考える会議の意見として最終上がってしまう形になるので、それでいいのかという話が、また残ってしまう可能性もあるので、それであれば、会議録を毎回そのまま教育委員に見てもらう方が届くのではないかと思います。

(教育長) 前は、地域協議会から出た意見書を教育委員会が受けて、それによって教育委員会が方向性を決めるという段取りで、幼稚園、小学校それぞれで行って行っていました。今回は、今後を考える会議ということですので、皆さんの意見を一つの意見書にまとめることはできません。ただ、先程申し上げたように、会議録はしっかりと目を通していただくのと、この会議に関しては、総合教育会議までにホームページに載せるというところまでは時間的に難しいですが、今日出た全ての方の意見について、しっかりと理事者、また教育委員に伝えます。3人の方々からこういう意見書が提出されたという報告をさせていただきます。ただそれは、教育委員会の定例教育委員会、総合教育会議の中でするのではなくて、事前の段階でしっかりと共有できるよう、お約束いたします。ですので、この意見書について、採択ではなくて、報告はさせていただきます。

(参加者) 生駒市における、小中一貫教育の形態について、全然聞いていなかったという意見もありましたけれども、これは住民説明会の資料として、【資料2-1】に書いてあります。あのとき、たくさん資料があったと思うのですが、その中に入っていますので、この場で、全然知らなかったというのは疑問があると思います。

(参加者) いろんなパターンがあるのは、十分説明していただいていたと感じています。その中で生駒市の教育委員会が目指しているところが見えなかったというのが私の意見です。

(事務局) その他も含めて、いろいろご意見いただきました。
この会議につきましては、本日が一旦の区切りということにさせていただきますと思います。ただ、来年度以降につきましても、新たな会議体を設置してやると、スケジュールにもあえて記載をさせていただきます。学校運営協議会が、南小・中学校合同で行われていますので、おそらくそこを中心とした会議体なのではないかとは思いますが、当然そのメンバーにつきましても、有識者の方、そして今度は学校の先生方、保護者の方、いろんな方の意見をお聞きして、よりよい学校を前向きに、建設的につくっていくような会議体をつくりたいと思っていますので、どうぞご理解のほど、よろしく願いいたします。

(教育長) 本日は、長時間ありがとうございました。全ての参加者の皆様方からご意見を伺うことができて、また、私も自分の考え、思いや方法を伝えるというのは、本当に難しいと思いました。自分では、もっと早くにお伝えしていたつもりだったのにとか、それも確かに言わせていただいたこともあったのではないかということも思いながら、結局は、その肝心な、お聞きになりたいことを的確にお伝えできなかった、これは本当に私自身反省しているところです。でも、これで終わりではありません。この意見書にも書かれている子どもたちの問題を正面に据えて、子どもたちを中心にした学校づくり、また、先生方への負担がかからないような配慮、老朽化した校舎をどんなふう新しいものにしていくか、これは、夢のある、希望のある事業です。様々なアイデアをこれから出していただきながら、子どもが笑顔で学校生活を送れる、保護者の方が安心して子どもを通わせることができる、また、地域の方にとっても、一緒に使いながら、地域を盛り立てていけるような、また連携ができるような文化施設、スポーツ施設、そういう施設を、皆さんとこれから一緒に考えていきたいと思います。全国のモデルになるような、生駒の南地区にこんな素晴らしい学校、こんな素晴らしい教育ゾーンができる、その実現に向けて、皆様方のお力もお借りしたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。